

算数・数学ワーキンググループにおける検討事項

1. 算数・数学を通じて育成すべき資質・能力について
 - ・算数・数学を学ぶ本質的な意義や他教科との関連性について
 - ・三つの柱に沿った育成すべき資質・能力の明確化について
 - i) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
 - ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
 - iii) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性など）
 - ・幼稚園・小学校・中学校・高等学校を通じた算数・数学において育成すべき資質・能力の系統性について
 - ・算数科・数学科において育成すべき資質能力と指導内容との関係について
 - ・統計的な内容等の充実について

2. アクティブ・ラーニング（※）の三つの視点を踏まえた、資質・能力の育成のために重視すべき算数・数学の指導等の改善充実の在り方について

3. 資質・能力の育成のために重視すべき算数・数学の評価の在り方について

4. 必要な支援（特別支援教育の観点から必要な支援等を含む）、条件整備等について

※アクティブ・ラーニングの三つの視点（企画特別部会「論点整理」18ページ参照）

- i) 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。
- ii) 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。
- iii) 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

理数科

高等学校基礎学力
テスト(仮称)

【高等学校】

- ① 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり表現したりするための技能を身に付ける。
- ② 身に付けた知識や技能を活用して課題を解決し、その過程を振り返って本質を明らかにしたり、発展させたりする力を養う。
- ③ 数学のよさを認識し、数学を活用して数学的論拠に基づき判断する態度を養う。
- それぞれの内容を生活と関連付けたり、生徒の疑問を取り上げたりして生徒の主体的活動を充実する。
- 課題の解決のために粘り強く考え、自分の考えを適切に表現する力を養う。



【高等学校】
○数学と理科の内容の関連を重視し、数学的な見方や考え方、科学的な見方や考え方を活用して課題解決や探究することを充実する。

【中学校】

- ① 数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則を理解し、問題解決過程において数学的に処理する技能を身に付ける。
- ② 既習の内容を基に、様々な事象等を数学を生かして考察する力や、数量や図形に関する知識や技能を見だし発展・統合する力を養う。
- ③ 数学のよさを実感し、様々な事象の考察や問題解決に数学を活用する態度を養う。
- 問題解決に必要な情報を生徒自らが集めたり選択したりすることなどから自ら決まりを見付ける活動、見いだした決まりを既習の内容を生かして演繹的に説明する活動を充実する。
- 既習の内容を振り返って関連を図ったり、新たに学んだ内容を用いると、どのようなことができるようになったのかなどについて明らかにしたりする活動を充実する。



【小学校】

- ① 数量や図形についての基礎的・基本的な概念や性質などを理解し、数理的に処理する技能を身に付ける。
- ② 日常の事象について見通しをもち筋道を立てて問題解決したり、基礎的・基本的な数や図形の性質や計算の仕方などを見いだし、そのことをもとに発展的・統合的に考えたりする力を養う。
- ③ 算数の学習を進んで生活や学習に活用しようとしていたり、数理的な処理のよさに気づいたり、自立的に学習を進めようとしていたり、表現されたことについて批判的に検討しようとしていたり、多面的に表現したりしようとする態度を養う。
- 事象を数理的に考察したり、自分の考えを数学的に表現し処理したり、協働的に問題解決したりする学習活動を充実する。
- 具体物、図、数、式、表やグラフ相互の関連を図る学習活動を充実する。



【幼稚園】

- (例)生活や遊びを通じて、自分たちに関係の深い数量、長短、広さや速さ、図形の特徴などに関心をもち、必要感をもって数えたり、比べたり、組み合わせたりする。

資質・能力の三つの柱に沿った、
小・中・高を通じて各教科等において育成すべき資質・能力の整理

	個別の知識や技能 (何を知っているか、 何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 <small>教科等の本質に根ざした見方や考え方や (知っていること、 できることをどう使うか)</small>	学びに向かう力、人間性等 <small>情意、態度等に関わるもの (どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか)</small>	資質・能力の育成のために 重視すべき学習過程の例
<p>数学 高等学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ＜数理探究（仮称）＞ 知識・技能の深化・統合 課題研究を遂行するための知識技能 数学における基本的な概念や原理・法則の体系的理解 事象を数学化したり、数学的に解釈・表現したりすること 	<ul style="list-style-type: none"> 高度な課題解決能力（観察・実験デザイン力、構想力、実証的・論理的・分析的・統合的に考察する力、発表・表現力） 新たな発見をしたり、創造をしたりする力 事象を数学的に考察・表現し、問題を解決したり、問題解決の過程を振り返ってその本質や他の事象との関係を認識する力 	<ul style="list-style-type: none"> 事象や科学的課題に徹底的に向き合い、考え抜いて行動する態度 自発的、創造的に取り組む態度 研究に対する倫理的な態度 数学のよさを認識し、事象の考察や問題の解決に数学を積極的に活用して、数学的論拠に基づいて判断する態度 問題の解決などにおいて、粘り強く、柔軟に考え抜こうとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> 事象の把握 課題の設定 仮説の設定／解決の計画 情報収集／知識・技能の習得 解決／検討・考察 表現・伝達 疑問や問いの発生 定式化による問題設定 問題の理解 解決の計画、実行、検討 新たな疑問や問い、推測などの発生
<p>数学 中学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> 数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則の理解 問題解決過程において活用できる数量や図形などに関する知識 問題解決過程において数学的に処理するために必要な技能 	<ul style="list-style-type: none"> 既習の内容を基にして、数や図形の性質などを見いだし、発展させる力 実社会や実生活における事象など数学外の世界と数学を結び付け、数学を生かして考察する力 	<ul style="list-style-type: none"> 数学のよさを実感し、様々な事象の考察や問題解決に数学を活用する態度 数学的論拠に基づき考察を深めたり意思決定を行ったりする態度 問題の解決などにおいて、粘り強く考え抜こうとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> 疑問や問いの発生 定式化による問題設定 問題の理解 解決の計画、実行、検討 新たな疑問や問い、推測などの発生
<p>算数 小学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などの理解 数理的に処理するために必要な技能 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な数や図形の性質や計算の仕方などを見いだしたり、そのことを基に発展的に考えたり、既習の数学と結びつけ、統合的に考えたりする力 日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え表現し、そのことを基に問題解決したり判断したりする力 	<ul style="list-style-type: none"> 数理的な処理のよさに気付き、算数の学習を進んで生活や学習に活用しようとする態度 答えを出した筋道が正しいかを確認したり、出した答えを自分で確かめたりするなど自立的に学習を進めたり、数学的に表現・処理したことについて批判的に検討しようとしたりする態度 抽象的に表現されたことを具体的に表現しようとしたり、具体的に表現されたことをより一般的に表現しようとするなど、多面的に考えようとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> 日常の事象の定式化による問題設定 解決の見通し、ねらいの明確化 解決の実行 解決したこととの協働的検討 解決過程や結果の振り返り（概念の深まり、発展・統合）

理科ワーキンググループにおける検討事項

1. 理科を通じて育成すべき資質・能力について
 - ・理科を学ぶ本質的な意義や他教科との関連性について
 - ・三つの柱に沿った育成すべき資質・能力の明確化について
 - i) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
 - ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
 - iii) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性など）
 - ・幼稚園・小学校・中学校・高等学校を通じた理科において育成すべき資質・能力の系統性について

2. アクティブ・ラーニングの三つの視点を踏まえた、資質・能力の育成のために重視すべき理科の指導等の改善充実の在り方について

3. 資質・能力の育成のために重視すべき理科の評価の在り方について

4. 必要な支援（特別支援教育の観点から必要な支援等を含む）、条件整備等について

【高等学校】

《**高度:explore science**》 (Especially Science for Interested students:世界をリードする人材として)

- ◎ 科学的課題に徹底的に向き合い、考え抜いて行動する態度を養う。科学的な探究能力を活用して、専門的な知識と技能の深化・統合化を図るとともに、自発的・創造的な力を養う。
- **科学的な探究能力の育成を主体的に**図ることができる「課題研究」を充実させる。(理数科, 数理探究(仮称))

《**応用:advanced science**》 (Science for Interested students: 科学技術立国としての日本を支える人材として)

- ◎ 科学に関する課題に向き合い、科学的に探究する能力と態度を養う。**専門的な知識と技能の深化を図り**, 論理的な思考力や創造性の基礎を養う。
- 「**観察・実験**」や「**探究活動**」を一層充実させて, **科学的な探究能力(課題解決能力)の育成を図る**。また, 日常生活や他教科(数学, 情報, 保健体育, 地理など)との関連を図る。

《**基礎:basic science**》 (Science for All students: 善良な市民として)

- ◎ **日常生活における様々な状況において, 科学的な知識や技能を使ってその状況を理解し, 課題を明確にして, 根拠に基づき結論や意思決定を導き出すことができる力を養う。**
- ① **自然に対する畏敬の念を持ち, 科学の必要性や有用性を認識するとともに, 科学的根拠に基づき, 多面的・総合的に判断する態度を養う。**
- ② **自然の事象を目的意識を持って観察・実験し, 科学的に探究したり, 科学的な根拠をもとに表現したりする力を養う。**
- ③ **基本的な概念や原理・法則の体系的理解と科学的探究についての理解や, 探究のために必要な観察・実験等の基本的な技能を養う。**
- **中学校で身に付けた資質・能力を活用して, 科学的な探究のプロセスを体験させる「観察・実験」や「探究活動」を充実させる。また, 日常生活や他教科(数学, 情報, 保健体育, 地理など)との関連を図る。**

【中学校】

- ① **自然の事象にすんでかわり, 科学的に探究する態度と根拠に基づき判断し表現する態度を養う。**
 - ② **自然事象の中に問題を見いだして仮説を設定し, 計画をたて, 目的意識をもって観察・実験し, 得られた結果を分析・解釈する力を養う。**
 - ③ **基本的な概念や原理・法則の体系的理解や観察・実験等の基本的な技能を養う。**
 - **小学校で身に付けた, 比較, 分類, 関係付け, 条件制御などの資質・能力をさらに高め, 自然事象の把握, 問題の設定, 予想・仮説の設定, 検証計画の立案, 観察・実験の実施, 結果の処理, 考察・推論, 表現等の学習活動を充実する。また, 日常生活や他教科との関連を図る。**
- 例えば, 1年:自然の事象・事象に進んでかわり, その中から問題をみいだす。2年:解決方法を立案して実行し, 結果の妥当性を検討する。3年:問題解決過程のすべての過程を振り返り, その妥当性を検討する。

【小学校】

- 【理科】
- ① **自然を大切に, 生命を尊重する態度, 科学的に探究する態度を養う。**
 - ② **見通しをもつて的確に観察, 実験などを行い, 問題解決の能力とその妥当性を検討する力を養う。**
 - ③ **自然の事象・現象についての理解を図り, 科学的な見方や考え方を養う。**
 - **観察・実験の結果を整理し考察し表現する学習活動を充実する。また, 日常生活や他教科との関連を図る。**
 - **問題解決の能力, 例えば, 3年:差異点や共通点に気付き問題を見いだす力, 4年:既習事項や生活経験を基に根拠のある予想や仮説を発想する力, 5年:質的变化や量的変化, 時間的変化に着目して解決の方法を発想する力, 6年:要因や規則性, 関係を多面的に分析して考察し, より妥当な考えをつくりだす力を育成する学習活動を充実する。**
 - **目的を設定し, 計測して制御するという考え方の学習活動を充実する。**

(小学校低学年)

例えば, 【生活科】

- **自然とのかかわりに関心をもち, 自然を大切にしたり, その不思議さに気付いたりすることができ。**
- **身近な自然を観察したり, 季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりなどして, 四季の変化や季節によって生活の様子が変わることや成長していることに気付く, 自分たちの生活を工夫したり楽しんだりできる。**
- **身近にある自然を利用したり, 身近にある物を使ったりなどして, 遊びや遊びに使う物を工夫して作り, その面白さや自然の不思議さに気付く, みんなで遊びを楽しむことができるようにする。**
- **動物を飼ったり植物を育てたりして, それらの育つ場所, 変化や成長の様子に関心をもち, また, それらは生命をもっていることや成長していることに気付く, 生きものへの親しみをもち, 大切にすることができるようにする。**

【幼稚園】

(教育課程部会幼児教育部会において, 本部会での議論を踏まえ, 幼児期に育みたい資質・能力, 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化について審議)

- **物との多様なかかわりの中で, 物の性質や仕組みについて考えたり, 気付いたりする。**
- **身近な物や用具などの特性や仕組みを生かしたり, いろいろな予想をしたり, 楽しみながら工夫して使う。**
- **水や氷, 日向や日陰など, 同じものでも季節により変化するものがあるのを感じ取ったり, 変化に応じて生活や遊びを変えたりする。**
- **身近な動物の世話や植物の栽培を通じて, 生きているものへの愛着を感じ, 生命の営みの不思議さ, 生命の尊さに気付く, 感動したり, いたわったり, 大切にしたりする。**

改善のための
PDCA
サイクル

改善のための
PDCA
サイクル

改善のための
PDCA
サイクル

理科	<p>個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)</p> <p><選択科目：数理探究(仮称)> ●知識・技能の深化・統合化 ●課題研究を遂行するための知識・技能</p> <p><選択科目：数理探究(仮称)を含めない> ●知識・技能の深化 ●高等学校理科における概念や原理・法則の体系的理解</p> <p><必修科目> ●高等学校理科における基本的な概念や原理・法則の体系的理解 ●科学的探究についての理解 ●探究のために必要な観察・実験等の技能</p>	<p>思考力・判断力・表現力等 教科等の本質に根ざした見方や考え方等 (知っていること・できることをどう使うか)</p> <p>●高度な課題解決能力(観察・実験デザイン力, 構想力, 実証的・論理的・分析的・統一的・統合的に考察する力, 発表・表現力) ●新たな発見をしたり, 創造したりする力</p> <p>●課題解決能力(論理的・分析的・統一的に考察する力) ●新たなものを創造しようとする力</p> <p>●科学的な見方や考え方, 自然に対する多面的なものの見方 ●自然の事象を目的意識を持って観察・実験し, 科学的に探究したり, 科学的な根拠をもとに表現したりする力</p>	<p>学びに向かう力, 人間性等 情意, 態度等に関わるもの (どのように社会・世界と関わり, よりよい人生を送るか)</p> <p>●科学的課題や事象に徹底的に向き合い, 考え抜いて行動する態度 ●自発的, 創造的に取り組む態度 ●研究に対する倫理的な態度</p> <p>●科学的に探究する態度 ●科学に対する倫理的な態度</p> <p>●自然の事象・現象に対する畏敬の念 ●果敢に挑戦する態度 ●科学の必要性や有用性の認識 ●科学的根拠に基づき, 多面的・総合的に判断する態度 ●中学校で身に付けた課題解決の力などを活用しようとする態度</p>	<p>資質・能力の育成のために 重視すべき学習過程等の例 (20160114案)</p>
高等学校			<p>見直し</p> <p>振り返り</p> <p>自然事象の把握 情報収集と分類 課題の設定 仮説の設定 検証計画の立案 観察・実験の実施 結果の処理 考察・推論 表現・伝達</p>	
中学校	<p>●中学校理科における基本的な概念や原理・法則の体系的理解 ●科学的探究についての基本的な理解 ●探究のために必要な観察・実験等の基礎的な技能(器具などの操作, 記録, データの処理, 安全への配慮等)</p>	<p>○自然事象の中に問題を見いだして仮説を設定する力 ○計画をたて, 目的意識をもって観察・実験する力 ○得られた結果を分析して解釈するなど, 科学的に探究する力と科学的な根拠をもとに表現する力 ○問題解決の過程における妥当性を検討するなど総合的に振り返る力</p>	<p>○自然の事物・現象にすすんでかわわる態度 ○粘り強く挑戦する態度 ○科学することの面白さや有用性の気付き ○科学的根拠に基づき的確に判断する態度 ○小学校で身に付けた問題解決の力などを活用しようとする態度</p>	<p>見直し</p> <p>振り返り</p> <p>自然事象の把握 課題の設定 仮説の設定 検証計画の立案 観察・実験の実施 結果の処理 考察・推論 表現</p>
小学校	<p>■自然事象に関する性質や基本的な概念, 規則性などの体系的理解 ■理科を学ぶ意義の理解 ■科学的に問題解決を行うために必要な観察・実験等の基礎的な技能(安全への配慮, 測定の方法, データの記録等)</p>	<p>(各学年で主に育てたい力) 6年: 自然の事物・現象の変化や働きについてその要因や規則性, 関係を多面的に分析し考察して, より妥当な考えをつくりだす力 5年: 予想や仮説などをとくに質的変化や量的変化, 時間的変化に着目して解決の方法を発想する力 4年: 見いだした問題について既習事項や生活経験をもとに根拠のある予想や仮説を発想する力 3年: 比較を通して自然の事物・現象の差異点や共通点に気付き問題を見いだす力</p>	<p>■自然に親しむ態度 ■失敗してもくじけずに挑戦する態度 ■科学することの面白さ ■科学的な根拠に基づき判断する態度 ■問題解決の過程に関してその妥当性を検討する態度 ■知識・技能を実際の自然事象や日常生活などに適用する態度 ■多面的, 総合的な視点から自分の考えを改善する力</p>	<p>見直し</p> <p>振り返り</p> <p>自然事象の把握 問題の見いだし 予想・仮説の設定 検証計画の立案 観察・実験の実施 結果の整理 考察や結論の導出</p>

理科の内容における主な見方や考え方の整理例（案）

1 科学の目的

科学の目的は、自然事象を説明できる法則や理論を構築していくこと



2 理科の内容における見方や考え方の全体像を考える前提

理科の内容における見方や考え方の全体像も法則や理論の構築という視点から整理することが必要

領域	エネルギー	粒子	生物	地球
見方・考え方 （働きかけ方）	自然の事象・現象を関係的かつ量的にとらえる	自然の事象・現象を実体的かつ質的にとらえる	自然の事象・現象（生物）を全体と部分という関係でとらえる	自然の事象・現象（地球と宇宙）を全体と部分という関係でとらえる
校種	小			
事象の分節化	事象を分節化せず、直覚的にとらえる			
観察言語 例：重さ	物体を関係的かつ量的にとらえ、それらを規則性とする	事象や気体などを実体的かつ質的にとらえる	個体レベルにおいて全体と部分の関係でとらえる	事象どうしを全体と部分の関係でとらえる
校種	中			
事象の分節化	事象を、主に可逆的なものを扱う領域（エネルギー、粒子）と主に不可逆的なものを扱う領域（生命、地球）に分節化し、実体的にとらえる			
理論言語 例：質量	関係的かつ量的にとらえ、それを法則とする	原子・分子レベルで実体的かつ質的にとらえる	細胞レベルにおいて全体と部分の関係でとらえる	事象どうしを分析的に全体と部分の関係でとらえる
校種	高			
事象の分節化	事象を、エネルギー、粒子、生命、地球に分節化し、本質論的にとらえる			
理論言語 例：質量	法則どうしをより包括的（高次の法則）にとらえる	原子・分子レベルで物質の様相を統一的にとらえる	原子・分子レベルにおいて全体と部分の関係でとらえる	事象どうしを統一的（法則）に全体と部分の関係でとらえる

<p>学習活動例(主体的な課題解決) 見通しと振り返りの例</p>	<p>理科における資質・能力の例</p>	<p>協働的な学びの例</p>
<p>課題把握(発見)</p> <p>自然事象の把握 ↓ 情報収集と分類</p>	<p>● 抽出した情報から共通点や相違点に気付き、問題を見いだす力</p> <p>● 必要な情報を選択する力 ● 抽出した情報に基づいて課題を理解する力 ● 課題発見・課題解決に必要な新たな知識・技能を獲得する力</p>	<p>意見交換・議論 意見交換・議論</p>
<p>課題探究</p> <p>課題・予想・仮説の設定 見通し ↓ 検証計画の立案 ↓ 観察・実験の実施 ↓ 結果の処理・整理</p>	<p>● 知識や情報に基づいて明確な課題や予想や仮説を設定する力(結果の予測)</p> <p>● 観察・実験の計画のために知識・技能を活用するとともに、計画を評価・選択・決定する力</p> <p>● 観察・実験の実施のために知識・技能を活用したり実行したりする力</p> <p>● 観察・実験の結果を処理・整理するために知識・技能を活用する力</p>	<p>意見交換・議論 意見交換・議論 調査 意見交換・議論</p>
<p>課題解決</p> <p>考察・推論・結論の導出 振り返り ↓ 表現・伝達</p>	<p>● 結果を分析・解釈する力 ● 結果の妥当性を判断し、結論を導き出す力 ● 新たな知識やモデル等を創造し、次の課題解決に向けた展開を創造する力</p> <p>● 考察・推論したことや結論を発表したり、レポートにまとめたりする力</p>	<p>意見交換・議論 研究発表 相互評価</p>

次の課題解決(問題解決)のプロセス

*なお、課題解決(問題解決)の過程は、必ずしも一方向の流れではない。また、授業では、そのプロセスの一部のみを扱ってもよい。

芸術ワーキンググループにおける検討事項

1. 芸術系科目を通じて育成すべき資質・能力について
 - ・芸術系科目を学ぶ本質的な意義や他教科との関連性について
 - ・三つの柱に沿った育成すべき資質・能力の明確化について
 - i) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
 - ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
 - iii) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性など）
 - ・幼稚園・小学校・中学校・高等学校を通じた芸術系科目において育成すべき資質・能力の系統性について
 - ・芸術系科目において育成すべき資質・能力と指導内容との関係について

 2. アクティブ・ラーニングの三つの視点（※）を踏まえた、資質・能力の育成のために重視すべき芸術系科目の指導等の改善充実の在り方について

 3. 資質・能力の育成のために重視すべき芸術系科目の評価の在り方について

 4. 必要な支援（特別支援教育の観点から必要な支援等を含む）、条件整備等について
- ※アクティブ・ラーニングの三つの視点（企画特別部会「論点整理」18ページ参照）
- i) 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。
 - ii) 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。
 - iii) 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

小・中・高を通じ、音楽科、芸術科（音楽）において 育成すべき資質・能力の整理（検討のたたき台）

	<p>個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)</p>	<p>思考力・判断力・表現力等 教科等の本質に根ざした見方や考え方等 (知っていること、できることをどう使うか)</p>	<p>学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの (どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか)</p>
<p>小学校 音楽</p>	<p>【知識】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の内容、我が国の音楽を含めているような種類の音楽があること、生活の中に様々な音楽があることに関する知識 ・歌い方や楽器の演奏の仕方に関する知識 ・曲想（その変化）と楽曲の構造の理解 など <p>【技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽表現をするための基礎的な技能 など 	<p>【表現によって育む思考力・判断力・表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽に対する感性を働かせ、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもつ、音楽表現を創造する能力 など <p>【鑑賞によって育む思考力・判断力・表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽に対する感性を働かせ、楽曲の特徴や演奏のよさを考え味わう、音楽のよさなどを見いだす能力 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽への関心・意欲・態度 ・感性 ・協働して表現する喜び ・音楽を愛好する心情 ・生活の中に音楽を生かしたり、我が国や諸外国の音楽文化に親しんだりする態度 ・豊かな情操 など
	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽表現の創意工夫や鑑賞の支えとなる、音符、休符、記号や音楽にかかわる用語の理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽表現の創意工夫や鑑賞の支えとなる、音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、旋律、音の重なりや和声の響き、反復、問いと答えなど）の聴き取りと、それらの働きが生み出すよさや面白さなどの感じ取り 	

小・中・高を通じ、音楽科、芸術科（音楽）において 育成すべき資質・能力の整理（検討のたたき台）

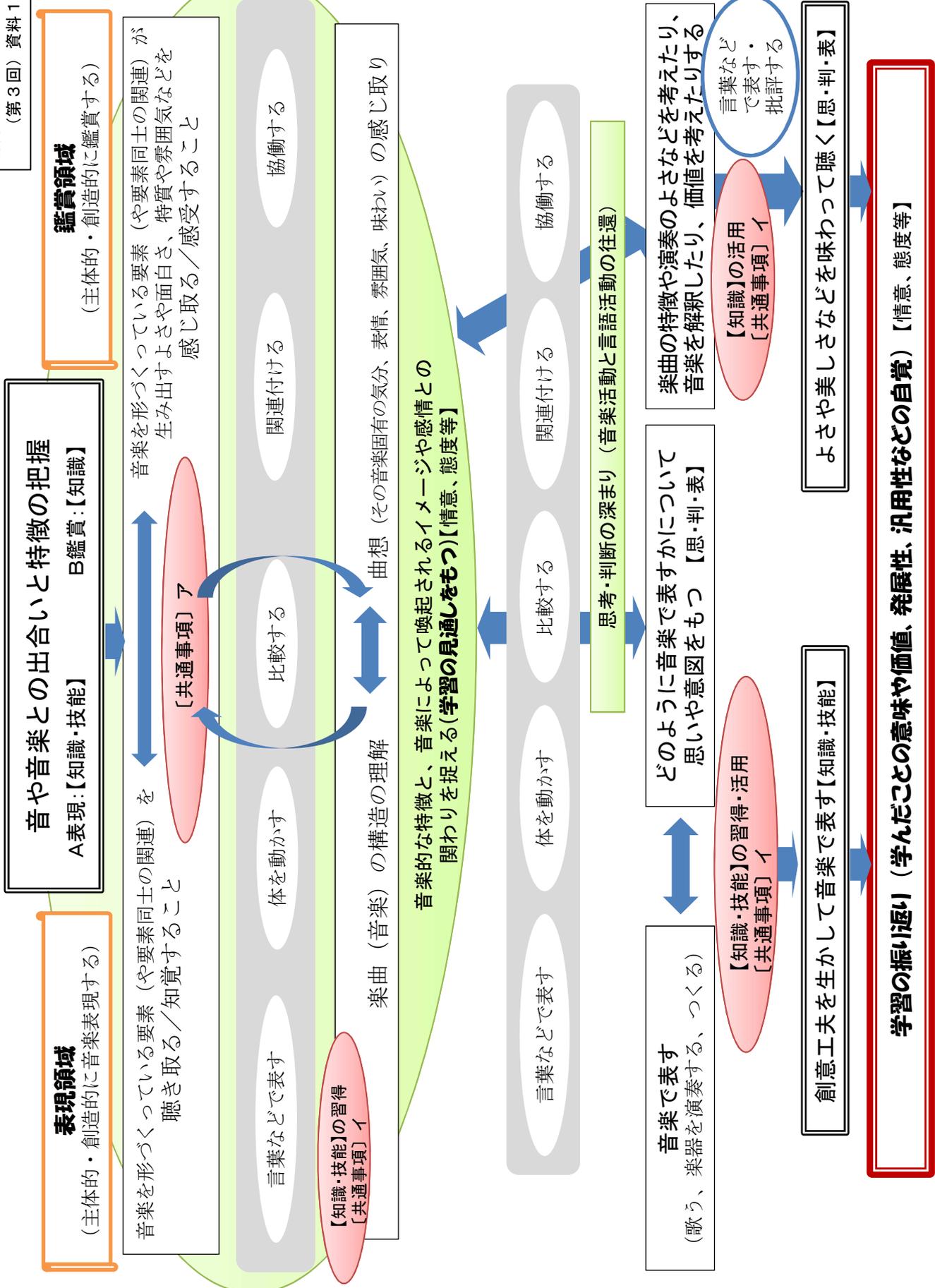
	<p>個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)</p>	<p>思考力・判断力・表現力等 教科等の本質に根ざした見方や考え方等 (知っていること、できることをどう使うか)</p>	<p>学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの (どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか)</p>
<p>中学校 音楽</p>	<p>【知識】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歌詞の内容、楽曲の成立背景、作詞者や作曲者、我が国や郷土の音楽文化、生活の中の音や音楽の働きなどにに関する知識と曲想との関わりの理解 ・ 発声、楽器の発音の仕方や奏法に関する知識 ・ 音楽的な特徴や楽曲の構造と曲想との関わりの理解 <p>など</p>	<p>【表現によって育む思考力・判断力・表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽に対する感性を働かせ、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもつ、音楽表現を創造する能力 <p>など</p> <p>【鑑賞によって育む思考力・判断力・表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽に対する感性を働かせ、音楽を自分なりに解釈したり自分にとっての価値を考えたりしたことを基に、根拠をもって批評するなどして、音楽文化に対する理解を深め、よさや美しさを味わう、音楽の意味や価値を創造する能力 <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽への関心・意欲・態度 ・ 感性 ・ 協働して表現する喜び ・ 音楽を愛好する心情 ・ 我が国の音楽文化に愛着をもつとともに、諸外国の音楽文化を尊重する態度 ・ 豊かな情操 <p>など</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽表現の創意工夫や鑑賞の支えとなる、音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成など）や要素同士の関連の知覚と、それらの働きが生み出す特質や雰囲気への感受 		

小・中・高を通じ、音楽科、芸術科（音楽）において 育成すべき資質・能力の整理（検討のたたき台）

	<p>個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)</p>	<p>思考力・判断力・表現力等 教科等の本質に根ざした見方や考え方等 (知っていること、できることをどう使うか)</p>	<p>学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの (どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか)</p>
<p>高等学校 芸術 (音楽)</p>	<p>【知識】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 楽曲の背景（歌詞の内容、文化的・歴史的背景、生活や社会の中の音や音楽の働きなど）に関する知識と曲想や表現上の効果との関わりの理解 ・ 音楽的な特徴と発声、楽器の発音の仕方や奏法との関わりに関する知識 ・ 音楽を形づくっている要素とそれらの働きの理解 ・ 音楽的な特徴や楽曲の構造と曲想との関わりの理解 <p>など</p>	<p>【表現によって育む思考力・判断力・表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感性を働かせ、音楽表現を工夫し、楽曲の背景などに関わらせながら表現意図をもつ、音楽表現を創造する能力 <p>など</p> <p>【鑑賞によって育む思考力・判断力・表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感性を働かせ、音楽を自分なりに解釈したり自分や社会にとつての価値を考えたりしたことを基に、根拠をもって批評するなどして、芸術としての音楽や音楽文化に対する理解を深め、よさや美しさを味わう、音楽の興味や価値を創造する能力 <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽への関心・意欲・態度 ・ 感性 ・ 生涯にわたり音楽を愛好する心情 ・ 音楽文化を尊重する態度 ・ 音環境への関心 ・ 豊かな情操 <p>など</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽表現の創意工夫や鑑賞の支えとなる、音楽に関する用語や記号などの音楽活動を通じた理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽表現の創意工夫や鑑賞の支えとなる、音楽を形づくっている要素の知覚と、それらの働きの感受 	

音楽科、芸術科（音楽）における学習のプロセス（イメージ案）

平成28年1月22日
 教育課程部 会
 芸術ワーキンググループ
 (第3回) 資料1-2



小・中・高を通じ、図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸） において育成すべき資質・能力の整理（検討のたたき台）

平成28年1月22日
教育課程部
芸術ワーキンググループ
(第4回)資料1-1

学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの (どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか)

思考力・判断力・表現力等 教科等の本質に根ざした見方や考え方等 (知っていること、できることをどう使うか)

個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)

<p>【知識】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発想や構想する際に活用する知識 ・表現方法や用具の扱いなど技能を動かせる際に活用する知識 ・作品などのよさや美しさなどを感じ取る際に活用する知識 	<p>【創造的な技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思い付いた活動や、表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使い創造的に表す技能 ・思い付いた活動や、表したいことに合わせて、表し方を工夫し創造的に表す技能 ・前学年までの材料や用具などについて経験を生かし創造的につくる技能 	<p>【主に表現によって育む思考力・判断力・表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感性や想像力、手や体全体の感覚などを働かせて、形や色、材料などを操作しながら創造的に思考・判断し、造形的な活動を思い付いたり、表したいことを見付けたりする ・感性や想像力、手や体全体の感覚などを働かせて、形や色、材料などを操作しながら創造的に思考・判断し、表し方を構想する 	<p>【主に鑑賞によって育む思考力・判断力・表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感性や想像力、手や体全体の感覚などを働かせて、自分たちの作品や美術作品などを見たり、それについて話したりしながら創造的に思考・判断し、作品のよさや美しさなどを感じ取る 	<ul style="list-style-type: none"> ・ つくりだす喜び ・ 造形への関心・意欲・態度 ・ 感性 ・ 形や色、イメージなどによるコミュニケーションを通して、生活や社会と豊かに関わる態度 ・ 豊かな情操 <p>など</p>	<p>など</p>	<p>など</p>	<p>など</p>
<p>・ 形や色などの造形的な特徴に関すること 例えば、形（大きさ、長さ、方向性、変化など）や色（明るさ、鮮やかさ、変化など）、組合せなどの感じ、動きや奥行きなど</p>		<p>・ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと</p>		<p>・ 形や色などの造形的な特徴に関すること 例えば、形（大きさ、長さ、方向性、変化など）や色（明るさ、鮮やかさ、変化など）、組合せなどの感じ、動きや奥行きなど</p>		<p>・ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと</p>	

小学校
図画工作

小・中・高を通じて、図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）において 育成すべき資質・能力の整理（検討のたたき台）

学びに向かう力、人間性等
情意、態度等に関わるもの
 （どのように社会・世界と関わり
 よりよい人生を送るか）

思考力・判断力・表現力等
教科等の本質に根ざした見方や考え方等
 （知っていること・できることをどう使うか）

個別の知識や技能
 （何を知っているか、何ができるか）

<p>【知識】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発想や構想する際に活用する知識 ・材料の特性や用具の使い方など意図に応じた技能を働かす際に活用する知識 ・作品などのよさや美しさなどを感じ取り味わう際に活用する知識 ・生活を心豊かにする美術の働きや美術文化について理解する際に活用する知識 <p>など</p>	<p>【創造的な技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の表したいことを材料や用具の特性を生かし、新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現するための技能 ・自己の表したいことを制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって創造的に表現するための技能 <p>など</p>	<p>【主に表現によって育む思考力・判断力・表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感性や想像力を働かせ、アイデアスケッチなどで形や色彩などを用いて創造的に思考・判断し自ら感じ取ったこと、思い描いたこと、考えたこと、伝えたいことなどから主題を創出する ・自己の表したい主題を、感性や想像力を働かせて、アイデアスケッチなどで形や色彩、材料などを用いて創造的に思考・判断して構成し、どのように表現するのかという考えを組み立てるなどして構想する <p>など</p>	<p>【主に鑑賞によって育む思考力・判断力・表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感性や想像力を働かせて、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして創造的に思考・判断し、作品などのよさや美しさを感じ取ったり、生活の中の美術の働きや美術文化について理解を深めたりする <p>など</p>
---	--	---	---

・形や色彩、材料や光などのもつ性質やそれらがもたらす感情などに関すること
 （例えば、…色の三属性や体系、形や色のもつ性質や感情、色の組合せや配色、色相・明度・彩度の類似や対照、材料のもつ地肌の特徴や材質感、光の効果など）

・形や色彩、材料や光などの特徴などからイメージを捉えること

- ・創造活動の喜び
 - ・美術への関心・意欲・態度
 - ・感性
 - ・形や色彩などによるコミュニケーションを通して生活や社会の中の美術と主体的にかかわる態度
 - ・生涯にわたり美術を愛好する心情
 - ・美術文化の継承と創造への関心
 - ・豊かな情操
- など

中学校
美術

小・中・高を通して、図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）において 育成すべき資質・能力の整理（検討のたたき台）

	個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 教科等の本質に根ざした見方や考え方等 (知っていること・できることをどう使うか)	学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの (どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか)				
高等学校 芸術 (美術)	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="391 1691 1300 2027"> 【知識】 <ul style="list-style-type: none"> ・主題生成や構想する際に活用する知識 ・材料や用具などの特性や使い方など意図に応じて技能を働かす際に活用する知識 ・美術作品などのよさや美しさなどを感じ取り理解を深める際に活用する知識 ・生活を心豊かにする美術の働きやより広い視野をもって美術文化について理解を深める際に活用する知識 など </td> <td data-bbox="391 1366 1300 1691"> 【創造的な技能】 <ul style="list-style-type: none"> ・意図に応じて、材料や用具、映像メディア機器などの特性を生かして創造的に表現するための技能 ・自己の生成した主題を追求して創造的に表現するための技能 など </td> </tr> </table>	【知識】 <ul style="list-style-type: none"> ・主題生成や構想する際に活用する知識 ・材料や用具などの特性や使い方など意図に応じて技能を働かす際に活用する知識 ・美術作品などのよさや美しさなどを感じ取り理解を深める際に活用する知識 ・生活を心豊かにする美術の働きやより広い視野をもって美術文化について理解を深める際に活用する知識 など	【創造的な技能】 <ul style="list-style-type: none"> ・意図に応じて、材料や用具、映像メディア機器などの特性を生かして創造的に表現するための技能 ・自己の生成した主題を追求して創造的に表現するための技能 など	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="391 929 1300 1332"> 【主に表現によって育む思考力・判断力・表現力等】 <ul style="list-style-type: none"> ・感性や想像力、美的感覚を働かせて、アイデアスケッチなどで様々な造形要素を活用して創造的に思考・判断し、自ら感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、映像メディアの特性などから主題を生成する ・自らが生成した主題を感性や想像力、美的感覚を働かせて、アイデアスケッチなどで様々な造形要素を活用して創造的に思考・判断し、表現の構想をする など </td> <td data-bbox="391 548 1300 929"> 【主に鑑賞によって育む思考力・判断力・表現力等】 <ul style="list-style-type: none"> ・感性や想像力、美的感覚を働かせて、美術作品などに対して根拠をもって批評し合ったり討論し合ったりするなどして、創造的に思考・判断し、作品などに対して自分の考えをもち、芸術としての美術や生活や社会の中の美術の働き、美術文化を幅広く理解し、そのよさや美しさを感じ取り味わうこと など </td> </tr> </table>	【主に表現によって育む思考力・判断力・表現力等】 <ul style="list-style-type: none"> ・感性や想像力、美的感覚を働かせて、アイデアスケッチなどで様々な造形要素を活用して創造的に思考・判断し、自ら感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、映像メディアの特性などから主題を生成する ・自らが生成した主題を感性や想像力、美的感覚を働かせて、アイデアスケッチなどで様々な造形要素を活用して創造的に思考・判断し、表現の構想をする など	【主に鑑賞によって育む思考力・判断力・表現力等】 <ul style="list-style-type: none"> ・感性や想像力、美的感覚を働かせて、美術作品などに対して根拠をもって批評し合ったり討論し合ったりするなどして、創造的に思考・判断し、作品などに対して自分の考えをもち、芸術としての美術や生活や社会の中の美術の働き、美術文化を幅広く理解し、そのよさや美しさを感じ取り味わうこと など	<ul style="list-style-type: none"> ・美術への関心・意欲・態度 ・感性 ・形や色彩などによるコミュニケーションを通して生活や社会の中の美術と主体的にかかわる態度 ・生涯にわたり美術を愛好する心情 ・美術文化を尊重する態度 ・豊かな情操 など
【知識】 <ul style="list-style-type: none"> ・主題生成や構想する際に活用する知識 ・材料や用具などの特性や使い方など意図に応じて技能を働かす際に活用する知識 ・美術作品などのよさや美しさなどを感じ取り理解を深める際に活用する知識 ・生活を心豊かにする美術の働きやより広い視野をもって美術文化について理解を深める際に活用する知識 など	【創造的な技能】 <ul style="list-style-type: none"> ・意図に応じて、材料や用具、映像メディア機器などの特性を生かして創造的に表現するための技能 ・自己の生成した主題を追求して創造的に表現するための技能 など						
【主に表現によって育む思考力・判断力・表現力等】 <ul style="list-style-type: none"> ・感性や想像力、美的感覚を働かせて、アイデアスケッチなどで様々な造形要素を活用して創造的に思考・判断し、自ら感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、映像メディアの特性などから主題を生成する ・自らが生成した主題を感性や想像力、美的感覚を働かせて、アイデアスケッチなどで様々な造形要素を活用して創造的に思考・判断し、表現の構想をする など	【主に鑑賞によって育む思考力・判断力・表現力等】 <ul style="list-style-type: none"> ・感性や想像力、美的感覚を働かせて、美術作品などに対して根拠をもって批評し合ったり討論し合ったりするなどして、創造的に思考・判断し、作品などに対して自分の考えをもち、芸術としての美術や生活や社会の中の美術の働き、美術文化を幅広く理解し、そのよさや美しさを感じ取り味わうこと など						
	<ul style="list-style-type: none"> ・造形要素のもつ性質やそれらがもたらす感情などに関すること (例えば…形体、色彩、構成、質感、空間、量感、動勢、マツス、単純化、強調、構図、配色・混色、マチエールなど) 	<ul style="list-style-type: none"> ・造形要素などの特徴などからイメージを捉えること 					

小・中・高を通過し、図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）において 育成すべき資質・能力の整理（検討のたたき台）

個別の知識や技能

（何を知っているか、何ができるか）

【知識】

- ・身近な生活や社会的な視点に立って発想や構想する際に活用する知識
 - ・材料や用具の特性や効果、使い方など意図に応じて技能を働かす際に活用する知識
 - ・工芸作品などのよさや美しさを感じ取り理解を深める際に活用する知識
 - ・生活を心豊かにする工芸の働きやより広い視野をもって工芸の伝統と文化について理解を深める際に活用する知識
- など

【創造的な技能】

- ・制作方法を理解し意図に応じて、材料や用具を活用し、創意工夫して創造的に制作するための技能
 - ・手順や技法などを吟味し、創意工夫して創造的に制作するための技能
- など

思考力・判断力・表現力等

教科等の本質に根ざした見方や考え方等

（知っていること、できることをどう使うか）

【主に表現によって育む思考力・判断力・表現力等】

- ・感性や想像力、美的感覚を働かせて、アイデアスケッチや模型などで様々な造形要素を活用して創造的に思考・判断し、身近な生活や社会的な視点に立って発想する
 - ・用途や美しさとの調和、使用する人や場などに求められる機能や美しさなどから、感性や想像力、美的感覚を働かせて、アイデアスケッチや図面、模型などで様々な造形要素を活用して創造的に思考・判断し、制作の構想を練る
- など

【主に鑑賞によって育む思考力・判断力・表現力等】

- ・感性や想像力、美的感覚を働かせて、工芸作品などに対して根拠をもって批評し合ったり討論し合ったりするなどして、創造的に思考・判断し、自他の見方や感じ方の相違や、芸術としての工芸や生活や社会の中の工芸の働き、工芸の伝統と文化を幅広く理解し、その見方や感じ方を広げ深める
- など

学びに向かう力、人間性等

情意、態度等に関わるもの

（どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか）

- ・工芸への関心・意欲・態度
 - ・感性
 - ・形や色彩などによるコミュニケーションを通して生活や社会の中の工芸と主体的にかかわる態度
 - ・生涯にわたり工芸を愛好する心情
 - ・工芸の伝統と文化を尊重する態度
 - ・豊かな情操
- など

・造形要素などの特徴などからイメージを捉えること

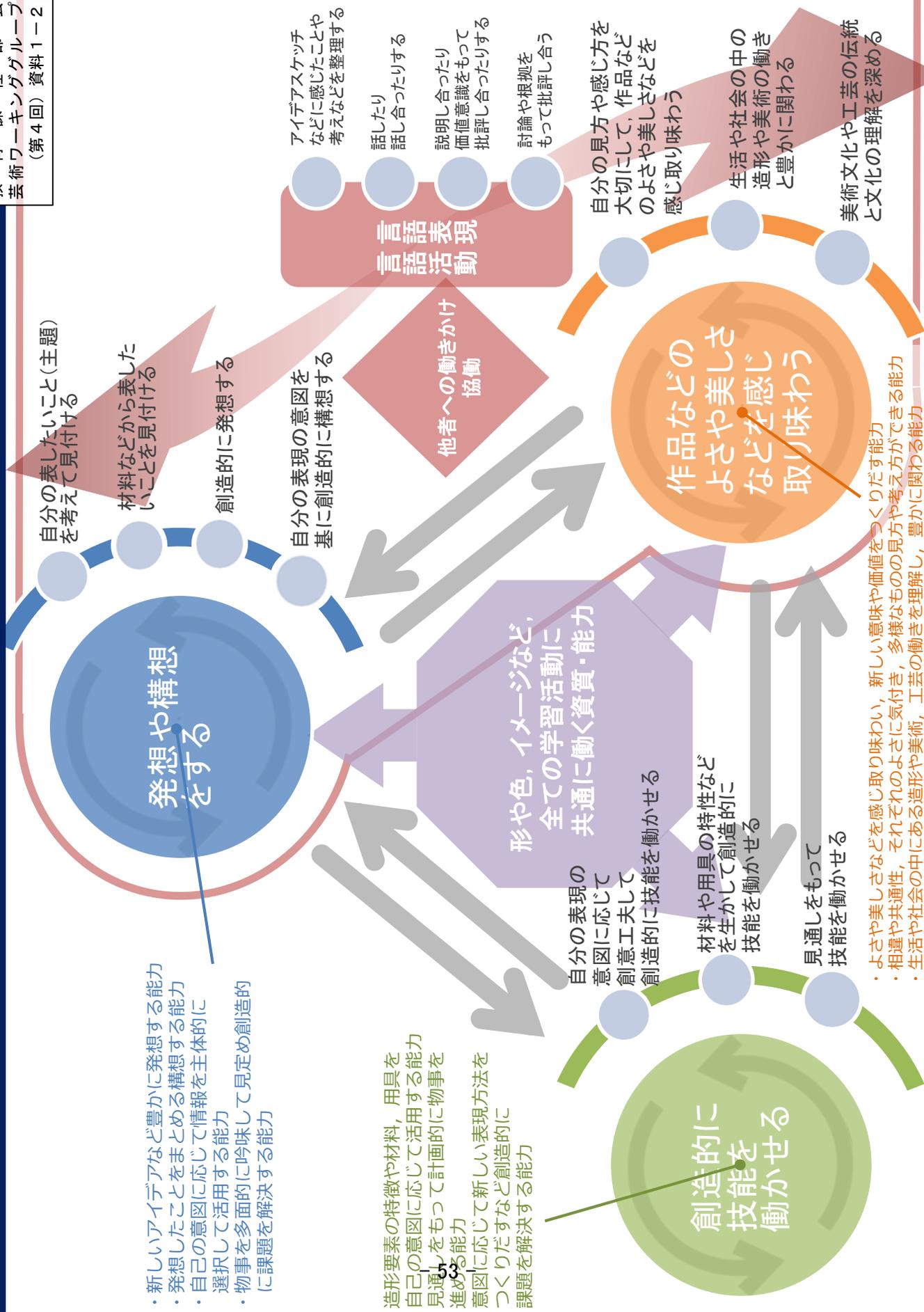
・造形要素のもつ性質やそれらがもたらす感情などに関すること
（例えば…素材（木、金属、土、繊維など）のもつ材質感、自然の中にもみられる形や色彩、材料の特性、）

図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）における学習のプロセス（イメージ案）

平成28年1月22日
 教育課程部
 芸術ワーキンググループ
 （第4回）資料1-2

形や色、材料などを操作したり
 用いたりして思考・判断する

言葉を用いて思考・判断する



芸術科（書道）において育成すべき資質・能力の整理 （検討のたたき台）

平成28年1月22日
教育課程部
芸術ワーキンググループ
（第4回）資料2-1

個別の知識や技能

（何を知っているか、何ができるか）

【知識】

- ・目的や意図に基づいて構想し、表現を工夫する学習において活用する知識
- ・用具・用材の特徴や扱い方を理解し、意図に応じて効果的に表現するための知識

- ・作品などのよさや美しさなどを感じ取り味わうことに関する知識

- ・生活や社会の中で文字や書の働きや、書の伝統と文化について理解を深めるための知識
- など

【技能】

- ・確かな書写能力を基盤としながら多彩な美へと発展させ、豊かに表現するための技能

- ・目的や意図に基づいて構想し工夫して、創造的に表現するための技能

- ・古典や名筆に基づくと点画や線質の表し方を理解し、効果的に表現するための技能
- など

思考力・判断力・表現力等

教科等の本質に根ざした見方や考え方等
（知っていること、できることをどう使うか）

【主に表現によって育む思考力・判断力・表現力等】

- ・書表現の諸要素を感じ、その表現効果を考えながら、自らの意図に基づいて作品を構想する

- ・自らの構想に基づき、様々な表現要素を関連させて、思考・判断し、効果的な表現を工夫するなど

【主に鑑賞によって育む思考力・判断力・表現力等】

- ・作品について根拠をもちて批評し合うなどして、その価値を考え、芸術としての書のよさや美しさを創造的に味わう

- ・文字や書の伝統と文化について幅広く理解し、豊かに関わることを通して、書に対する見方や考え方を広げ、新たな価値を見出す
- など

学びに向かう力、人間性等

情意、態度等に関わるもの
（どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか）

- ・書への関心・意欲・態度
 - ・感性
 - ・文字や書の生活や社会の中での働きや効用を考え、主体的に関わる態度
 - ・生涯にわたり書を愛好する心情
 - ・書の伝統と文化を尊重する態度
 - ・豊かな情操
- など

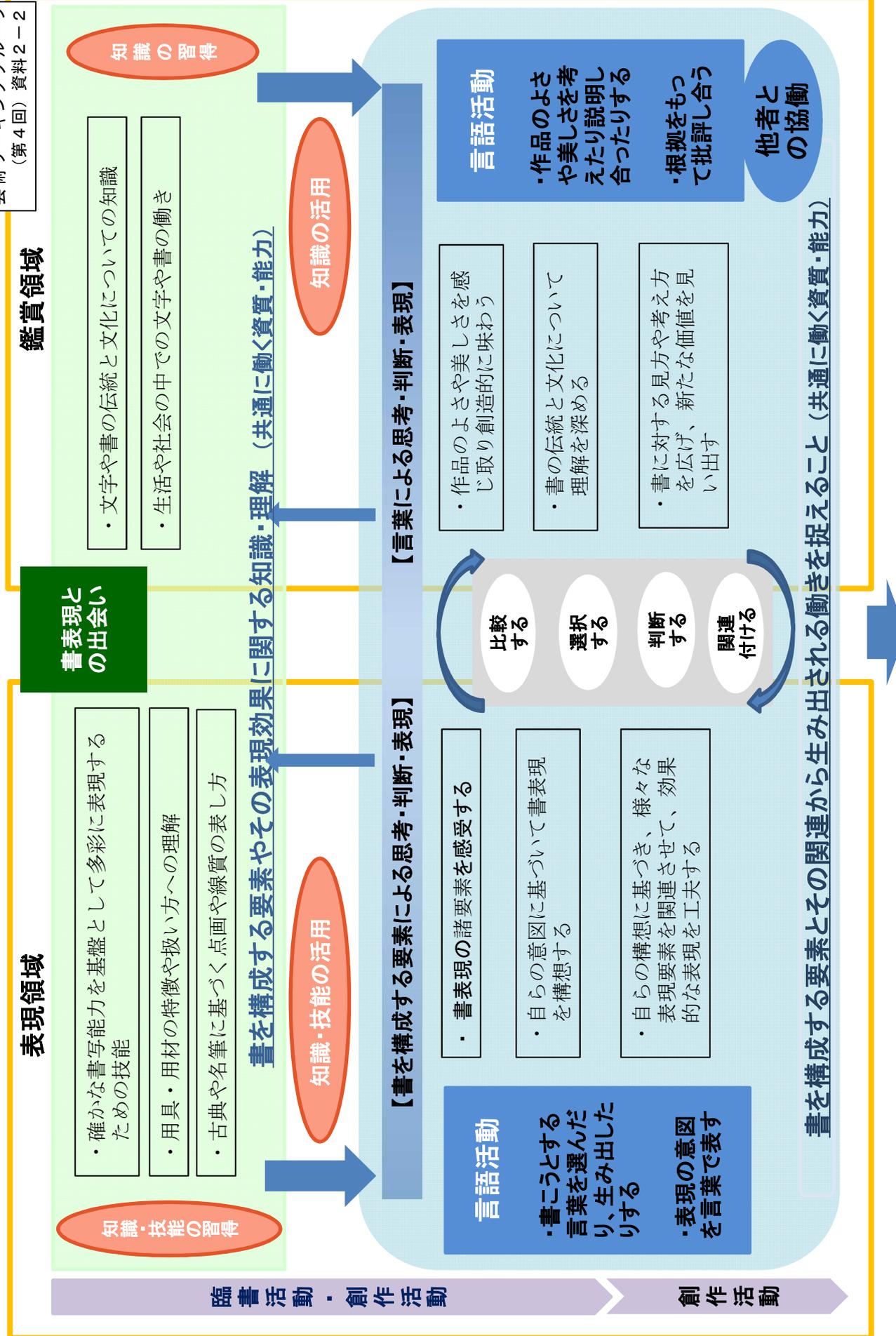
- ・書を構成する要素やその表現効果に関する知識・理解

（例えば…線質、字形、長短、曲直、濃淡、余白、布置、章法、構成など）

- ・書を構成する要素とその関連から生み出される働きを捉えること

芸術科（書道）における学習のプロセス（イメージ案）

平成28年1月22日
 教育課程部 会
 芸術ワーキンググループ
 （第4回）資料2-2



高等学校

【芸術科(音楽Ⅲ)】
 【芸術科(音楽Ⅱ)】

【芸術科(音楽Ⅰ)】※
 ○豊かな感性や生涯にわたり音楽を愛好する心情をもつ。

○創造的な表現と鑑賞の能力を働かせて、豊かに表現したり、鑑賞したりすることができる。

- 例えば…
- ・音楽を形づくっている要素を知覚・感受し、根拠をもって音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさや価値などについて批評するなどして味わって聴いたりすることができる。

・他者と協働して新たな価値を創造することができる。

など

○生活や社会の中の音や音楽の働きや、音楽の伝統と文化について、深く理解することができる。

- 例えば…
- ・生活や社会との関わりにおいて、TPOに応じた心地よい音環境を求める意識をもつ。
 - ・音楽が、伝統や文化などの影響を受けて生み出されてきた意味や価値を理解することができる。
 - ・音楽活動を通して、多様な音楽文化についての意味や価値を理解することができる。

など

【芸術科(美術Ⅲ)】
 【芸術科(美術Ⅱ)】

【芸術科(美術Ⅰ)】※
 ○豊かな感性や生涯にわたり美術を愛好する心情をもつ。

○創造的な表現と鑑賞の能力を働かせて、豊かに表現したり、鑑賞したりすることができる。

- 例えば…
- ・造形要素の働きなどを考え、自己の思いや考えを創造的に表現したり、美術作品などのよさや美しさなどを感じ取り、理解を深めたりすることができる。

・形や色彩などの造形的な視点を明確にし、対象を分析的に捉えたり、根拠をもって批評したりするなどして美術作品などに対する理解を深めることができる。

など

○生活や社会の中の美術の働きや、美術文化について、深く理解することができる。

- 例えば…
- ・生活や社会を明るく豊かにする美術の働きについて考え、理解することができる。
 - ・伝統的かつ創造的な日本の美術文化について理解することができる。

・日本及び諸外国の美術文化についての理解を深め、国際社会に生きる日本人としての自覚を高めることができる。

など

【芸術科(工芸Ⅲ)】
 【芸術科(工芸Ⅱ)】

【芸術科(工芸Ⅰ)】※
 ○豊かな感性や生涯にわたり美術を愛好する心情をもつ。

○創造的な表現と鑑賞の能力を働かせて、豊かに表現したり、鑑賞したりすることができる。

- 例えば…
- ・造形要素の働きなどを考え、自己の思いや使う人の願いなどを考えて心豊かに表現したり、工芸作品などのよさや美しさなどを感取り、理解を深めたりすることができる。

・形や色彩などの造形的な視点を明確にし、対象を分析的に捉えたり、根拠をもって批評したりするなどして工芸作品などに対する理解を深めることができる。

など

○生活や社会の中の工芸の働きや、工芸の伝統と文化について、深く理解することができる。

- 例えば…
- ・生活や社会を明るく豊かにする工芸の働きについて理解することができる。
 - ・伝統的かつ創造的な日本の工芸の伝統と文化について理解することができる。

・日本の工芸の伝統と文化についての理解を深め、国際社会に生きる日本人としての自覚を高めることができる。

など

【芸術科(工芸Ⅲ)】
 【芸術科(工芸Ⅱ)】

【芸術科(工芸Ⅰ)】※
 ○豊かな感性や生涯にわたり美術を愛好する心情をもつ。

○創造的な表現と鑑賞の能力を働かせて、豊かに表現したり、鑑賞したりすることができる。

- 例えば…
- ・造形要素の働きなどを考え、自己の思いや使う人の願いなどを考えて心豊かに表現したり、工芸作品などのよさや美しさなどを感取り、理解を深めたりすることができる。

・形や色彩などの造形的な視点を明確にし、対象を分析的に捉えたり、根拠をもって批評したりするなどして工芸作品などに対する理解を深めることができる。

など

○生活や社会の中の工芸の働きや、工芸の伝統と文化について、深く理解することができる。

- 例えば…
- ・生活や社会を明るく豊かにする工芸の働きについて理解することができる。
 - ・伝統的かつ創造的な日本の工芸の伝統と文化について理解することができる。

・日本の工芸の伝統と文化についての理解を深め、国際社会に生きる日本人としての自覚を高めることができる。

など

【芸術科(書道Ⅲ)】
 【芸術科(書道Ⅱ)】

【芸術科(書道Ⅰ)】※
 ○豊かな感性や生涯にわたり書を愛好する心情をもつ。

○創造的な表現と鑑賞の能力を働かせて、豊かに表現したり、鑑賞したりすることができる。

- 例えば…
- ・書表現の諸要素を感受し、自らの意図に基づいて構想し工夫して表現したり、作品のよさや美しさを感じ取り、理解を深めたりすることができる。

・書表現効果を味わい、そのよさや価値などについて根拠をもって批評し合うなどして、書に対する理解を深めることができる。

など

○生活や社会の中での文字や書の働きや、書の伝統と文化について、深く理解することができる。

- 例えば…
- ・生活や社会における文字や書の効用を理解することができる。
 - ・書の伝統と文化の広がりがりやそれが生み出されてきた歴史的背景について理解することができる。
 - ・日本の書の美に対する感性や価値を理解することができる。

・日本の書の美に対する感性や価値を理解することができる。

など

※ I を付した科目のうち、1科目を共通必修科目とする。

中学校

【音楽科】

○豊かな感性や音楽を愛好する心情をもつ。
○音楽活動の基礎的な能力を働かせて、豊かに表現したり鑑賞したりすることができる。

例えば…

- ・音楽を形づくっている要素の知覚と感受の関連を図り、音楽のよさや美しさなどについて自分の考えをもちながら、音楽表現を工夫したり、自分にとっての価値を明らかにして味わって聴いたりすることができる。
- ・他者と音や言葉による交流を通して考えを広げたり深めたりして、自分にとっての新たな価値を創造することができる。

など

○生活の中の音や音楽の働きや音楽文化について、理解することができる。

例えば…

- ・身の回りの音や音楽に関心をもち、音環境に対する意識をもつ。
- ・我が国や郷土の伝統音楽を含む、世界の多様な音楽それぞれがもつよさや美しさを味わい、音楽の多様性を理解することができる。
- ・我が国で長く歌い継がれている歌曲を歌うことができる。

など

【美術科】

○豊かな感性や美術を愛好する心情をもつ。
○美術の基礎的な能力を相互に働かせて、豊かに表現したり鑑賞したりすることができる。

例えば…

- ・形や色彩などのもつ性質や感情などを考え、表現したいことを基に表現したり、作品などのよさや美しさなどを感じ取り味わうことができる。
- ・対象を形や色彩などの視点をもって分析的に捉えたり、自分の価値意識をもって批評したりして作品などの見方や感じ方を深めることができる。
- ・形や色彩などによるコミュニケーションを通して、自分の中に新しい意味や価値をつくりだすことができる。

○生活の中の美術の働きや、美術文化について、理解することができる。

例えば…

- ・生活の中の美術の果たす役割や働きについて理解することができる。
- ・我が国の美術文化について理解するとともに、諸外国の美術文化との相違と共通性に気づき、美術を通して国際理解を深めることができる。

など

【音楽科】

○感性や音楽を愛好する心情をもつ。
○音楽活動の基礎的な能力を働かせて、表現したり鑑賞したりすることができる。

例えば…

- ・音楽を形づくっている要素を聴き取り感じ取りながら、こう表したいという思いや意図をもって表現したり、楽曲の特徴や演奏のよさを考え味わって聴いたりすることができる。
- ・音や言葉によるコミュニケーションを図りながら、自分にとって価値のある創造的な音楽活動をすることができる。

○生活の中の音や音楽や、我が国や諸外国の音楽に親しむことができる。

例えば…

- ・生活の中の様々な音や音楽の特徴に気付くことができる。
- ・我が国や郷土の音楽及び諸外国のいろいろな音楽に関心をもち、
- ・世代や地域を超えて親しんで聴きながら、日本のうたを歌うことができる。

など

【美術科】

○豊かな感性や美術を愛好する心情をもつ。
○美術の基礎的な能力を相互に働かせて、豊かに表現したり鑑賞したりすることができる。

例えば…

- ・形や色彩などのもつ性質や感情などを考え、表現したいことを基に表現したり、作品などのよさや美しさなどを感じ取り味わうことができる。
- ・対象を形や色彩などの視点をもって分析的に捉えたり、自分の価値意識をもって批評したりして作品などの見方や感じ方を深めることができる。
- ・形や色彩などによるコミュニケーションを通して、自分の中に新しい意味や価値をつくりだすことができる。

○生活の中の美術の働きや、美術文化について、理解することができる。

例えば…

- ・生活の中の美術の果たす役割や働きについて理解することができる。
- ・我が国の美術文化について理解するとともに、諸外国の美術文化との相違と共通性に気づき、美術を通して国際理解を深めることができる。

など

【図画工作科】

○感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうことができる。
○造形的な創造活動の基礎的な能力を相互に働かせて、表現したり鑑賞したりすることができる。

例えば…

- ・形や色などの特徴を捉えながら、造形的な活動を思い付き表現したり、表現したいことを絵や立体、工作に表現したりすることができる。
- ・自分たちの作品や美術作品などから、表現の意図や特徴などを捉え、よさや美しさを感じ取ることができる。
- ・形や色などによるコミュニケーションを通して、新しい意味や価値をつくりだすことができる。

○生活の中の造形や、我が国や諸外国の美術作品に親しむことができる。

例えば…

- ・生活の中の造形などに関心をもちることができる。
- ・我が国や諸外国の美術作品、暮らしの中の作品などを鑑賞して、よさや美しさを感じ取り、それらを大切にすることができる。

など

幼児教育

(教育課程部会幼児教育部会において、芸術ワーキンググループでの議論を踏まえ、幼児期に育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化について審議)

- ・生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにもちながら、楽しく表現する。
- ・生活や遊びを通して感じたことや考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったり、演じて遊んだりする。
- ・友達同士で互いに表現し合うことで、様々な表現の面白さに気づいたり、友達と一緒に表現する過程を楽しんだりする。

家庭、技術・家庭ワーキンググループにおける検討事項

1. 家庭、技術・家庭科を通じて育成すべき資質・能力について
 - ・家庭、技術・家庭科を学ぶ本質的な意義や他教科との関連性について
 - ・三つの柱に沿った育成すべき資質・能力の明確化について
 - i) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
 - ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
 - iii) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性など）
 - ・幼稚園・小学校・中学校・高等学校を通じた家庭、技術・家庭科において育成すべき資質・能力の系統性について
 - ・家庭、技術・家庭科において育成すべき資質・能力と指導内容の系統性について

2. アクティブ・ラーニングの三つの視点（※）を踏まえた、資質・能力の育成のために重視すべき家庭、技術・家庭科の指導等の改善充実の在り方について

3. 資質・能力の育成のために重視すべき家庭、技術・家庭科の評価の在り方について

4. 必要な支援（特別支援教育の観点から必要な支援等を含む）、条件整備等について

※アクティブ・ラーニングの三つの視点（企画特別部会「論点整理」18ページ（及び論点整理補足資料スライド26）参照）

- i) 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。
- ii) 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。
- iii) 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

【高等学校】 共通教科

- 実践的・体験的な学習活動を通して、生活を科学的に理解し、自立した生活者として必要な知識及び技術を習得する。
- 生活の課題を解決するために、家庭科における見方や考え方を踏まえて生活を科学的に探究し、多面的に解決方法を考え、安心して充実した生活を創造する能力を養う。
- 様々な年代の人と関係を深め、主体的に地域社会に参画し、社会の一員として、家庭や地域の生活を創造しようとする実践的な態度を養う。
- 「ホームプロジェクト」や「学校家庭クラブ活動」などの問題解決的な学習を充実する。
- 少子高齢社会に対応する力(子育て支援等の理解、高齢者の肯定的理解や基本的な介護技術、生涯生活設計能力)、生活課題を解決するために必要な社会参画力、他者と共生するためのコミュニケーション能力、消費・環境に配慮したライフスタイルを確立するための意思決定能力、日本の生活文化を継承・創造する力等を育成する学習活動を充実する。

【中学校】

- 衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、日本の生活文化についての理解を深める。
- これからの生活を展望して、生活の中から課題を見だし、身に付けた知識と技術を家庭分野における見方や考え方を踏まえて活用し、生活をよりよくしようと工夫する能力を養う。
- 自分と家庭、家庭生活と地域との関わりを考え、地域の人々と協働し、生活をよりよくしようとする実践的な態度を養う。
- 家庭や地域社会との連携を図り、「生活の課題と実践」などの問題解決的な学習を充実する。
- 少子高齢社会に対応する力(家庭の機能や子育て理解、高齢者理解等)、食生活の自立を図る力、消費・環境に配慮したライフスタイルを確立するために基礎となる力等を育成する学習活動を充実する。

【小学校(高学年)】

- 衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、日本の生活文化についての理解を深める。
- 生活の中から課題を見だし、身に付けた知識や技能を家庭科における見方や考え方を踏まえて活用し、生活をよりよくしようと工夫する能力を養う。
- 家庭生活への関心を高め、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようとする実践的な態度を養う。
- 家庭や地域と連携を図り、問題解決的な学習を充実する。
- 少子高齢社会に対応する力(家庭生活と家族の大切さなど)、健康で安全な食生活の基礎となる力、消費・環境に配慮した生活の仕方を工夫する力等を育成する学習活動を充実する。

【小学校(低・中学年)】

- 基本的な生活習慣や生活技能、身近な人々との接し方(家族や地域の様々な人々)、成長への喜び・成長を支えてくれた人々への感謝等(生活科)
- 健康によい生活についての理解(健康に過ごすための明らかな調節や換気などの生活環境)、体の発育・発達についての理解(体をよりよく発育・発達させるための調和のとれた食事)(体育科)
- 節度・節制(基本的な生活習慣、節度ある生活)、家族愛、家庭生活の充実等(道徳) 等

【幼児教育】(教育課程部会幼児教育部会において、本ワーキンググループでの議論を踏まえ、幼児期に育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化について審議)

- 衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動の必要性に気付き、自分です。
- 親や祖父母など家族を大切にしようとする気持ちをもつ。 等

技術で問題解決をする範囲と影響を及ぼす範囲

社会全体・地球環境・未来

生活範囲・地域環境・現在

※技術をまずは
見つける

【高等学校】

（情報の共通必修科目）

- 情報とそれを扱う技術を問題の発見と解決に活用するための科学的な考え方の育成
- 情報モラル、知的財産の保護、情報安全等に対する実践的な態度の育成
（職業に関する各教科・科目）
- 各専門分野（農業、工業等（以下略））に関する基礎的・基本的な知識と技術の習得
- 各専門分野の諸問題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決する能力の育成
- 各専門分野と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度の育成

【中学校】

- 材料、加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する技術についての基礎的・基本的な知識と技能を習得させ、技術と社会や環境との関わりについて理解を深める。
- よりよい社会の構築に向けて、技術分野における見方や考え方を踏まえて、技術を創造できる力を育成する。
- 安心・安全な生活の実現に向けて、技術分野における見方や考え方を踏まえて、技術を評価・活用できる力を育成する。
- 技術について関心をもたせ、安心・安全な生活を実現し、よりよい社会を構築するために、技術を適切に評価・活用・創造していこうとする態度を育成する。
- 社会における問題について、技術を評価・活用、創造して解決する活動を充実する
- 技術革新及びそれを担う職業への関心を高め、生産などの経済的主体等として求められる力、安全な社会づくりに必要な資質・能力、情報活用能力、知的財産を創造・保護・活用する態度、技術に関する倫理観等の育成に努める。

【小学校】

- 表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うとともに、表現に適した方法などを組み合わせて表す（図画工作）
- 材料や用具などについての経験や技能を総合的に生かしてつくる（図画工作）
- 身近にある物を使ったたりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、そのおもしろさに気づく（生活）
- ものづくりの活動を通して、自然の事物・現象の性質や働き、規則性についての理解を図る（理科）
- 道徳の内容との関連を踏まえた情報モラルに関する指導（道徳）等

【幼児教育】（教育課程部会幼児教育部会において、本ワーキンググループでの議論を踏まえ、幼児期の終わりにまでに育ってほしい姿の明確化について審議）

- 物との多様なかかわりの中で、物の性質や仕組みについて考えたり、気付いたりする。
- 身近な物や用具などの特性や仕組みを生かしたり、いろいろな予想をしたり、楽しみながら工夫して使う。
- 身近な動物の世話や植物の栽培を通じて、生きているものへの愛着を感じ、生命の営みの不思議さ、生命の尊さに気付いたり、大切にしたりする。等

情報ワーキンググループの今後の検討事項について

I 小・中・高等学校を通じた情報活用能力の育成について

- ① 小・中・高等学校の各教科等を通じて育まれる情報活用能力について、「三つの柱」に沿ってどのように整理すべきか
- ② 特に、プログラミングや情報セキュリティをはじめとする情報モラルなどに関する学習活動について、学校外の多様な教育活動とも連携しつつ、発達段階に応じてどのように充実を図るべきか
- ③ 関連して、各教科等におけるICTを活用した学習・指導について、「アクティブ・ラーニング」の視点に立った学びを推進する視点も踏まえ、どのように充実を図るべきか

II 高等学校情報科（各学科に共通する教科）の改善について

- ① 情報の科学的な理解に裏打ちされた情報活用能力を身に付けさせるため、情報科（各学科に共通する教科）の科目の構成、目標、内容及び学習・指導方法等について、どのように改善を図るべきか

III 学習指導要領の理念を実現するために必要な方策について

- ① 情報教育やICTを活用した学習・指導を充実するため、「カリキュラム・マネジメント」をどのように確立すべきか
- ② 情報教育やICTを活用した学習・指導を充実するため、教員の指導力の向上（養成・採用を含む。）やICT環境の整備等をどのように進めるべきか

※ 第2回以降においては、おおむねⅠ、Ⅱの順に検討し、Ⅲについては必要に応じて適時検討することとする

高等学校情報科（各学科に共通する教科）の改善について

- 検討事項1 小・中・高等学校を通じて育む「情報に関わる資質・能力」を踏まえ、高等学校情報科（各教科に共通する教科）においては、どのような力（見方・考え方）を育むべきか。
- 検討事項2 「論点整理」及び検討事項1の高等学校情報科において育む力（見方・考え方）を踏まえ、情報科の科目の構成及び目標・内容についてどのように改善を図るべきか。
- 検討事項3 高等学校情報科の改善の趣旨を実現するため、カリキュラム・マネジメントの確立、教員の指導力の向上（養成・採用を含む。）やICT環境の整備等、どのような課題があり、どのように改善を進めるべきか。

高等学校学習指導要領における情報科目改訂の方向性（たたき台案）

現行

社会と情報

- 1 情報の活用と表現
- 2 情報通信ネットワークとコミュニケーション
- 3 情報社会の課題と情報モラル
- 4 望ましい情報社会の構築

いずれか1科目(2単位)を
選択必修

情報の科学

- 1 コンピュータと情報通信ネットワーク
- 2 問題解決とコンピュータの活用
- 3 情報の管理と問題解決
- 4 情報技術の進展と情報モラル

改訂の必要性

高度な情報技術の進展に伴い、文理の別や卒業後の進路を問わず、**情報の科学的な理解に裏打ちされた情報活用能力**を身に付けることが重要

資質・能力

【情報科】

- 情報に関わる資質・能力を育てる中核として、情報や情報技術を問題の発見と解決に活用するための科学的な考え方を育てる
- 生徒の特性、進路等にに応じてそれを更に深める

高度情報社会に対応する情報教育

【各教科等の学習を通じて高等学校卒業までに育む情報に関する資質・能力】

- 問題の発見解決の過程や方法の理解
- 情報や情報手段の特性の理解と情報手段の操作技能
- 教科等の学習を通じて身に付ける知識等

- 情報を活用して問題を発見・解決する能力
- 問題発見・解決の過程において情報手段を活用する能力
- 情報を吟味し見極めようとする情意・態度等
- 自らの情報活用を評価・改善しようとする情意・態度等
- 情報モラル等について考え行動しようとする情意・態度等
- 情報社会に参画し、その発展に寄与しようとする情意・態度等

新科目案

情報Ⅰ（仮称） 共通必修履修科目

(1) コンピュータと情報通信ネットワーク

コンピュータにおいて情報が処理される仕組みや、情報通信ネットワークの仕組み、情報セキュリティについて理解し、情報システムの働きと提供するサービスの利用の在り方を考える

(2) 問題解決の考え方と方法

問題解決の基本的な考え方やモデル化とシミュレーションの考え方や方法を理解し、統計的手法とともに実際の問題の発見や解決に活用し、その過程と結果を評価し改善する

(3) 問題解決とコンピュータの活用

問題の発見や解決に情報技術を活用する方法を習得し、情報の共有と管理、プログラムの作成などを通して情報技術の有用性について考える

(4) 情報社会の発展と情報モラル

情報化が社会に果たす役割と及ぼす影響、情報モラルや情報社会の安全について理解し、個人が果たす役割と責任を考え、情報社会に主体的に参画しその発展に寄与する

情報Ⅱ（仮称） 選択科目

(1) 情報システムの活用

複数のコンピュータ等から構成される情報システムを理解し活用する

(2) データサイエンス

様々なデータの特性や扱いを理解し、これら进行处理し表現する

(3) 情報デザイン

情報を的確に対象者に伝える手法を理解し活用する

(4) 課題研究

情報Ⅰ及び(1)～(3)の学習を総合し深化させ、新たな価値を創造する

新科目の実現に向けての課題

他の各教科・科目等との連携(カリキュラム・マネジメント)

例1) 情報 I (仮称)「(2) 問題解決の考え方と方法」と数学科における統計に関する内容の学習との連携

情報 I (仮称)「(2) 問題解決の考え方と方法」において取り扱うことが想定される統計手法

- ・ヒストグラムなどによる資料の傾向の把握
- ・簡単な標本調査 (以上, 現行中学校数学科の内容)
- ・四分位範囲, 標準偏差, 相関係数などによるデータの傾向の把握(現行高等学校数学 I の内容)

なお, 情報 II (仮称)「(2) データサイエンス」においては, 統計的な推測(現行高等学校数学 B の内容)を活用することも想定される

例2) 情報 I (仮称)「(2) 問題解決の考え方と方法」と総合的な学習の時間における横断的・総合的な学習や探究的な学習との連携

効果的な指導や系統的な指導ができるよう, 積極的に情報と総合的な学習の時間との相互の関連を図るべきではないか

教科横断的な視点も重視した「カリキュラム・マネジメント」を通じて, 教育内容を組織的に配列し, 外部の資源も含めて必要な資源を投入していくことが必要

※中学校までの情報教育との連携(カリキュラム・マネジメント)も重要

情報科担当教員の指導力向上

- ・情報科担当教員の約3割が免許外教科担任
- ・情報科と他教科とを兼任している教員は約5割
(平成27年5月1日時点、文部科学省調べ)

また, 情報科免許状保有者についても, 「情報の科学」の指導経験が乏しい教員が少なくないと推定される

情報科免許状保有者の採用と計画的配置, 免許外教科担任及び臨時免許状により担当している教員の免許取得の促進, 情報科担当教員の研修の充実等を計画的に進めることが必要

ICT環境の整備

- ・第2期教育振興基本計画(平成29年度まで)における教育用コンピュータ1台当たりの児童生徒数の目標値3.6人に対し, 平成27年3月現在で6.4人に1台(高等学校は5.0人に1台)

- ・学校のICT環境整備状況に地域間格差

教育用コンピュータ等の計画的な整備を進めることが必要

次期学習指導要領の実施に向けて, 学校・教育委員会等において計画的に準備を進めることが必要

平成28年度中 中央教育審議会答申

その後, 高等学校学習指導要領改訂

平成34年度入学者から実施

(過去の例から想定されるスケジュール)

体育・保健体育、健康、安全 WG における検討事項（案）

1. 体育・保健体育を通じて育成すべき資質・能力について
 - ・ 体育・保健体育を学ぶ本質的な意義や他教科との関連性について
 - ・ 三つの柱に沿った育成すべき資質・能力の明確化について
 - i) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
 - ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
 - iii) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性など）
 - ・ 幼稚園・小学校・中学校・高等学校を通じた体育・保健体育において育成すべき資質・能力の系統性について
 - ・ 体育・保健体育において育成すべき資質・能力と指導内容との関係について
 - ・ オリンピック・パラリンピック大会を契機として育成すべき資質・能力、

2. アクティブ・ラーニングの三つの視点（※）を踏まえた、資質・能力の育成のために重視すべき体育・保健体育の指導等の改善充実の在り方について

3. 資質・能力の育成のために重視すべき体育・保健体育の評価の在り方について

4. 必要な支援（特別支援教育の観点から必要な支援等を含む）、条件整備等について

5. 健康・安全における資質・能力等について

※アクティブ・ラーニングの三つの視点（教育課程企画特別部会「論点整理」18ページ参照）

- i) 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか
- ii) 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか
- iii) 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

健やかな体の育成に関する教育のイメージ（たたき台）

体育科・保健体育科

発達段階



卒業後に少なくとも一つの運動やスポーツを継続することができるようにする

多くの領域の学習を経験する

各種の運動の基礎を培う

【高等学校】

生涯にわたる豊かなスポーツライフを継続する資質・能力を養うとともに、健康な社会づくりに参画する態度を育てる。

- 「する、みる、支える」などの多様なスポーツとの関わり方に関する指導を充実する。
- 体育で学習したことを実生活や実社会で生かし、運動の習慣化につなげる指導を充実する。
- 中学校からの接続を踏まえ、体力や技能の違いを超えてスポーツを楽しむよう、男女共習やアダプテッド・スポーツの体験の機会を充実する。
- 主体的に運動に取り組めるよう、協同的な学びや課題解決的な学びをさらに充実する。
- 健康課題や情報を批判的に捉え、課題解決を目指して論理的に考え、意志決定・行動選択する力を育てる。
- 自他の健康の保持増進や回復のための健康な社会づくりを目指して、健康的な環境づくりに参画する活動の充実。

【中学校】

生涯にわたって運動に親しむ資質・能力を養うとともに、健康の保持増進のための実践力を育成する。

- 小学校からの接続を踏まえ、競争や達成、課題解決、創造、協力などのスポーツを通じた多様な楽しさを味わえるよう、全ての領域の体験のさせ方を充実する。
- 体力や技能の違いを超えてスポーツを楽しむよう、男女共習やアダプテッド・スポーツの体験の機会を充実する
- 3年次では、自主的に運動に取り組めるよう、協同的な学びや課題解決的な学びをより充実する。
- 健康課題を把握し、適切な情報を選択、活用し、課題解決のために自己判断や意志決定する力を育てる。
- 自他の健康の保持増進や回復のためにコミュニケーションを図ったり、主張したりする活動の充実。

【小学校】

- 基礎的な身体能力や知識を身に付け、健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。
- 運動の楽しさや喜びを味わい、児童の運動への関心や意欲を高めるとともに、仲間と仲よく運動したり、運動の課題を主体的に解決したりする力を養うなど、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる。
- 身近な健康課題に関心を持ち、健康を保持増進するための情報を活用し、課題解決するとともに、自己の健康に関する取組を肯定的に捉える態度を育てる。

【幼児教育】

（教育課程部会幼児教育部会において、本部会での議論を踏まえ、幼児期に育みたい資質・能力、幼児期の終わりにまで育ってほしい姿の明確化について審議）

- 体を動かす様々な活動に目標をもって挑戦したり、困難なことにつまづいても気持ちを切り替えて乗り越えようとしていたり、主体的に取り組む。
- いろいろな遊びの場面に応じて、体の諸部位を十分に動かす。
- 健康な生活リズムを通して、自分の健康に対する関心や安全についての構えを身に付け、自分の体を大切に作る気持ちを持つ。

【たたき台】資質・能力の三つの柱に沿った、小・中・高を通して育成すべき資質・能力の整理イメージ（体育科・保健体育科） Ver. 3

平成28年1月20日
 体育・保健体育、健康、安全WG
 資料2ー1

小学校 体育	個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 <small>教科等の本質に根ざした見方や考え方や （知っていること、できることをどう使うか）</small>	学びに向かう力、人間性等 <small>情意、態度等に関わるもの （どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか）</small>
運動領域 ー 97 ー	各種の運動が有する特性や魅力に応じた 技能や知識 ・ 各種の運動を行うための技能 ・ 各種の運動の行い方についての基本的 な知識	自己の能力に適した課題をもち、活動を選 んだり工夫したりする思考力・判断力・表 現力等 ・ 自己の能力に適した課題に気付く力 ・ 自己の課題を解決するための活動を選ん だり、運動の行い方を工夫したりする力 ・ 思考し判断したことを、言葉や動作等で 他者に伝える力	運動の楽しさや喜びを味わい、明るく 楽しい生活を営むための態度 ・ 進んで学習活動に取り組む ・ 約束を守り、公正に行動する ・ 友達と協力して活動する ・ 自分の役割を果たそうとする ・ 安全に気を配る
保健領域	身近な生活における健康・安全について の基礎的な知識や技能 ・ 健康な生活、発育・発達、心の健康、 けがの防止、病気の予防に関する基礎的 な知識 ・ 不安や悩みの対処やけがの手当に関す る基礎的な技能	身近な健康課題に気付き、健康を保持増進 するための情報を活用し、課題解決する力 ・ 身近な健康課題に気付く力 ・ 健康情報を集める力 ・ 健康課題の解決方法を予想し考える力 ・ 学んだことを自己の生活に生かす力 ・ 健康に関する自分の考えを表現する力	健康の大切さを認識し、健康で楽しく 明るく生活を営む態度 ・ 自己の健康に関心をもつ ・ 自己の健康の保持増進のために協力 して活動する ・ 心身の発育・発達などを肯定的に捉 える

【たたき台】資質・能力の三つの柱に沿った、小・中・高を通じて育成すべき資質・能力の整理イメージ（体育科・保健体育科）Ver. 3

<p>中学校 保健体育</p>	<p>個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)</p>	<p>思考力・判断力・表現力等 教科等の本質に根ざした見方や考え方等 (知っていること、できることをどう使うか)</p>	<p>学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの (どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか)</p>
<p>体育分野</p>	<p>運動の特性に応じた行い方や運動の一般原則などの知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技能の名称や行い方の知識 ・運動の特性や成り立ちの知識 ・体力の要素や高め方の知識 ・運動観察の方法の知識 ・伝統的な考え方の知識 ・スポーツに関する科学的知識や文化的意義等の概要 <p>各種の運動が有する特性や魅力に応じた技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識を踏まえて、基本的な運動の技能として発揮したり、身体表現したりする 	<p>自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できる思考力・判断力・表現力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題に応じた運動の行い方の改善すべきポイントを見付ける力 ・自己の課題に応じて、適切な練習方法を選ぶ力 ・健康や安全を確保するために、体調に応じて適切な活動を選ぶ力 ・状況に応じた自己や仲間の役割を見付ける力 ・合意を形成するための適切なかわり方を見付ける力 ・運動を継続して楽しむための自己に適したかわり方を見付ける力 ・思考・判断したことを、根拠を示しながら相手に伝える力 	<p>運動の楽しさや喜びを味わい、明るく豊かな生活を営む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主的に学習活動に取り組む ・勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする ・フェアなプレイを大切にしようとする ・よい演技を讃えようとする ・互いの違いやよさを認め合おうとする ・相手を尊重し伝統的な行動の仕方を大切にしようとする ・自己の責任を果たそうとする ・多様性を認識し、話し合いに貢献しようとする ・健康・安全を確保する など
<p>保健分野</p>	<p>個人生活における健康・安全についての科学的な知識や技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代的な健康課題を踏まえた心身の機能の発達と心の健康、健康と環境、傷害の防止、健康な生活と疾病の予防に関する知識 ・ストレス対処、生活改善、応急手当に関する技能 	<p>健康課題を把握し、適切な情報を選択、活用し、課題解決のために自己判断や意志決定する力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自他の健康課題を発見する力 ・ 健康情報を収集、選択し、まとめる力。 ・ 健康情報や知識を活用して多様な解決方法を考える力 ・ 多様な解決方法の中から、適切な方法を選択・決定し、自他の生活に生かす力 ・ 自他の健康の考えや解決策を対象に応じて表現する力 	<p>健康の保持増進のための実践力を育成し、明るく豊かな生活を営む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自他の健康に関心をもつ ・ 自他の健康に対する取組のよさを認める ・ 自他の健康の保持増進や回復のために協力して活動する。

【たたき台】資質・能力の三つの柱に沿った、小・中・高を通じて育成すべき資質・能力の整理イメージ（体育科・保健体育科）Ver. 3

高等学校 保健体育	個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 (教科等の本質に根ざした見方や考え方や 知っていること、できることをどう使うか)	学びに向かう力、人間性等 (情意、態度等に関わるもの (どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか))
科目体育	運動の特性に応じた行い方や運動の一般原則などの知識 ・技能の名称や行い方の知識 ・体力の高め方の知識 ・課題解決の方法の知識 ・伝統的な考え方の知識 ・競技会の仕方や審判の方法等の知識 ・スポーツに関する科学的知識や文化的意義等 各種の運動が有する特性や魅力に応じた技能 ・知識を踏まえて、運動の技能として発揮したり、身体表現したりする	自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取組み方を工夫できる思考力・判断力・表現力 ・自己や仲間の挑戦する課題を設定する力 ・技術的な課題や有効な練習方法について指摘する力 ・課題解決の過程を踏まえて、自己や仲間の課題を見直す力 ・自己や仲間の危険を予測し回避するための活動の仕方を選ぶ力 ・状況に応じた自己や仲間の役割を設定する力 ・合意を形成するための調整の仕方を見付ける力 ・運動やスポーツを生涯にわたって楽しむための自己に適したかわり方を見付ける力 ・思考・判断したことを、根拠を示し示したり、他者に配慮したりして相手に伝える力	運動の楽しさや喜びを深く味わい、明るく豊かで活力ある生活を営む態度 ・運動の楽しさや喜びを深く味わい、主体的に取り組む態度 ・勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする ・フェアなプレイを大切にしようとする ・相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする ・役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとする ・多様性を尊重し、合意形成に貢献しようとする ・健康・安全を確保する など
科目保健	個人及び社会生活における健康・安全についての総合的な知識や技能 ・現代社会に生じた健康課題の解決に役立つ知識、健康な生活と疾病の予防に関する知識(一次予防だけでなく二次予防、三次予防も含む) ・ライフステージにおける健康を踏まえた生涯を通じる健康の知識 ・社会生活と健康に関する知識 ・生活改善や環境の確保、心身の健康の維持、応急手当に関する技能	健康課題や情報を批判的に捉え、課題解決を目指して論理的に考え意志決定・行動選択する力 ・社会生活に関わる健康課題を発見する力 ・社会生活を踏まえた健康情報を収集し、分析する力 ・社会背景や置かれている状況に応じて解決方法を考える力 ・解決方法を活用し、健康な社会づくりを目指して意志決定・行動選択する力 ・健康な社会づくりを目指して、健康の考えや解決策を表現する力	健康の保持増進のための実践力を育成し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度 ・社会生活に関わる健康づくりに関心をもつ ・健康・安全な社会を優先する ・健康の保持増進や回復のための社会づくりに参画する

生活・総合的な学習の時間ワーキンググループにおける検討事項

【生活科について】

1. 「生活科」を通じて育成すべき資質・能力について
 - ・ 育成すべき資質・能力の可視化について
 - i) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
 - ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
 - iii) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）
 - ・ 生活科の内容の構成要素等（学年目標を構成する項目、内容構成の基本的な視点と具体的な視点、内容の構成要素と階層性、学習対象等）と、論点整理で示された育成すべき資質・能力の三つの柱との関係について
 - ・ 中学年以降の各教科等とのつながりについて
 - ・ 低学年における他教科等との関連について
2. 幼児教育との円滑な接続を図るスタートカリキュラムの中核となる教科としての位置付けについて
 - ・ カリキュラム・マネジメントの視点からスタートカリキュラムの在り方について
 - ・ 幼児教育との接続及び、他教科等との連携の在り方について
 - ・ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と生活科において育成する資質・能力との関連性について

【総合的な学習の時間について】

1. 「総合的な学習の時間」を通じて育成すべき資質・能力の明確化について
 - ・ 各教科等の学習を踏まえた上で、総合的な学習の時間を通じて育成すべき資質・能力について
 - ・ 発達の段階に応じた育成すべき資質・能力について
 - ・ 発達の段階に応じて身に付けるべき学び方やものの考え方の明確化について
2. 教育課程全体における「総合的な学習の時間」の意義について
 - ・ 各教科における学習で身に付けた資質・能力を相互に関連付けた教科横断的な学習を行う時間としての意義
 - ・ 各教科等単独では取り組むことの難しい現代的な課題の学習を行う時間としての意義
 - ・ 高等学校教育において、より探究的な学習活動を重視する視点からの「総合的な学習の時間」の在り方について

特別活動ワーキンググループにおける検討事項

1. 特別活動を通じて育成すべき資質・能力について
 - ・特別活動を学ぶ本質的な意義や他教科等との関連性について
 - ・三つの柱に沿った育成すべき資質・能力の明確化について
 - i) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
 - ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
 - iii) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）
 - ・小学校、中学校、高等学校における特別活動で育成すべき資質・能力の系統性について
 - ・特別活動における学級・ホームルーム活動、児童・生徒会活動、クラブ活動、学校行事と、育成すべき資質・能力との関係について
 - ・特別活動で育成すべき資質・能力と、社会の要請（防災や社会参画など）に応じた活動内容との関係について
2. アクティブ・ラーニングの三つの視点（※）を踏まえた、資質・能力の育成のために重視すべき特別活動の指導等の改善・充実の在り方について
3. 「社会に開かれた教育課程」を実現していく上での特別活動の意義や役割について
4. スタートカリキュラムなど、学校種間の円滑な移行を図る上での特別活動の意義や役割について
5. 小学校、中学校、高等学校の連続性を踏まえた評価の在り方について
6. 必要な支援（特別支援教育の観点を含む）や条件整備等について

※アクティブ・ラーニングの三つの視点（企画特別部会「論点整理」18ページ参照）

- i) 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。
- ii) 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。
- iii) 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

【望ましい集団活動を通じて】小中高共通の育みたい資質・能力を以下の三つと仮定し整理】

- ◇人間関係を形成する力
- 社会に参画する力
- 自己を生かす力

【高等学校】多様な他者と協働し、望ましい集団活動を通して…

- ◇他者の価値観や個性を受け入れ、自己も生かしながら、時・場所・場面に応じた適切なコミュニケーションを図ることができるなど、自主的・実践的によりよい人間関係を築くことができる。
- ホームルーム・学校や地域・社会の問題を把握し、合意形成を図り、自己の果たすべき役割を考え、自主的・実践的に責任ある行動をとることができる。
- 自己の能力や適性、置かれている環境を受け入れて、主体的に日常生活や自己の在り方を改善することができる。
- 多様な情報を収集・整理し、興味・関心、自己の適性の把握などに基づき、将来を見通して主体的に自己の生き方を選択することができる。

【中学校】多様な他者と協働し、望ましい集団活動を通して…

- ◇自己や他者の個性を理解し、自他が安心して生活できるよう積極的にコミュニケーションを図るなど、自主的・実践的によりよい人間関係を築くことができる。
- 学級・学校や地域・社会の問題を見付け、合意形成を図って解決策を決め、自主的・実践的に取り組むことができる。
- 自己のよさや個性、置かれている環境を理解し、それを生かしつつ主体的に日常生活を改善することができる。
- 情報の収集・整理と、興味・関心、自己の適性の把握などにより、将来を見通して暫定的な自己の生き方を主体的に選択することができる。

【小学校】多様な他者と協働し、望ましい集団活動を通して…

- ◇助け合ったり協力し合ったりして、相手を信頼し支え合い、自主的・実践的によりよい人間関係を築くことができる。
- 学級・学校や地域の問題に気づき、解決方法などを話し合っって決め、解決のために自己の役割や責任を果たして、自主的・実践的によりよい生活をつくることができる。
- 自己の課題に気付いて生活改善したり、自己のよさを生かして主体的に活動したりすることができる。

【幼児教育】

（教育課程部幼児教育委員会において、本ワーキンググループでの議論を踏まえ、幼児期に育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化について審議）
（自立心）

- ・生活の流れを予測したり、周りの状況を感じたりして、自分でしなければならぬことを自覚して行う。
- ・自分のことは自分で行い、自分でできないことは教職員や友達の助けを借りて、自分で行う。
- ・いろいろな活動や遊びにおいて自分の力で最後までやり遂げ、満足感や達成感をもつ。
（協同性）
- ・いろいろな友達と積極的にかかわり、友達の思いや考えなどを感じながら行動する。
- ・相手に分かるように伝えたり、相手の気持ちを察して自分の思いの出し方を考えたり、我慢したり、気持ちを切り替えたりしながら、わかり合う。
- ・クラスの様々な仲間とかかわりを通じて互いのよさをわかり合い、楽しみながら一緒に遊びを進めていく。
- ・クラスみんなで共通の目的をもって話し合ったり、役割を分担したりして、実現に向けて力を発揮しやり遂げる。

産業教育ワーキンググループにおける検討事項

1. 職業に関する各教科を通じて育成すべき資質・能力について

- ・ 三つの柱に沿った育成すべき資質・能力の明確化について
 - i) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
 - ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
 - iii) どのように社会・世界とかがわり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）
- ・ 職業に関する各教科において育成すべき資質・能力と指導内容との関係について
- ・ 職業に関する各教科の科目構成について

2. これまでの実験・実習などの実践的、体験的な学習活動の成果やアクティブ・ラーニングの三つの視点を踏まえた、資質・能力の育成のために重視すべき指導等の改善充実の在り方について

(三つの視点)

- i) 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。
- ii) 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。
- iii) 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

3. 国家資格や各種検定、研究発表会や競技会等の活用を含めた、資質・能力の育成のために重視すべき評価の在り方について

4. 必要な支援（特別支援教育の観点から必要な支援等を含む）、条件整備等について

※ なお、検討を進めるにあたっては、専門分野ごとに求められる資質・能力を産業界や関係団体等との間で共有化しながら、以下の事項にも留意する。

- ①職業人として求められる専門的な知識及び技術の高度化や、職業の多様化への対応
- ②社会的責任を担う職業人としての規範意識や倫理観等の醸成、豊かな人間性の涵養
- ③地域や産業界との連携・交流を通じた、地域の産業や社会を担う人材の育成